-人ひとりを大切にする具体的な保育

5

愛知県碧南市・へきなん保育園園長

手立て

体的にどのように取り組んできたかをお伝 ました。今回は、幼児の保育について、旦 前回まで、乳児の保育について述べてき

らしく、落ち着いて話が聞けるように育っ う実践をしたクラスの子たちの育ちが素晴 疑問を持つところから始まりました。 は「いったいどうしたらよいのか」という ていった、と述べましたが、幼児について も一斉にするのではなく、伝えたいことが かったのです。連載第1回で、2歳児の1 に夢中で、幼児の保育にまで思いが至らな ある子の近くに行って、その子に話すとい クラスから遊びの環境を整えて、言葉掛け 1年目は乳児の遊びの環境を整えること

1 遊びの環境を整える

そして、今まで一斉にしていた絵を描く、 空いたところを玩具の棚にしたりしました。 えてくれました。 きる人数ずつで進めることを担任たちは考 ワークをするなどの活動を、丁寧に保育で せん。棚もおいおい買い揃えるとして、ま とにしました。しかし、充分な棚がありま あるだけの玩具を集めて部屋に設定するこ ず、今ある環境でロッカーを整理整頓して 坑具が出ていなかった現状を、とりあえず 条件だろうということで、数えるほどしか やはり、遊びの環境を整えることは必須

るようになりました。 減らすクラスも出てきました。机と椅子を 減らすことで、遊びのスペースを確保でき 置かなくてもよいということになり、数を そうしているうちに、机と椅子を人数分

しかし、同じことを4、5人ですること

を、2、3人ずつでするということは、 解できていて、何がわからないか」がわか なかったりすることもあります。「何が理 られていても、実際の概念が形成されて ば、普通に1、2、3、4、5などと数え かったことにも、気づけるようです。例え すが、一人ひとりの発達を見るという意味 育士にとってはとても時間がかかることで り、個々の発達に寄り添った保育ができる です。今まで一斉にしている時に気づけな では、本当に丁寧に見ることができるよう

2 食べたい子から食べ始める

ようです。

遊びのキリをつけて、座って待っている子 ています。食事の準備が始まると、早々に 席が空いていたら食べたい子から食べ始め の姿があります。 れぞれのタイミングで遊びのキリをつけて ことはしていません。なぜかというと、そ しょう。今、私の園では全員一緒に食べる 机の数を減らすと、昼食はどうなるので

て待っていることと、自分でおなかがすい る姿がありましたが、同じ待っている姿で 事ですよ」の合図で皆席に着いて待ってい ててね」といったから、保育士の指示によっ も意味が違います。それは、保育士が「待っ 皆で食事をしている時は、保育士の「食 ●幼児の外遊び



たから早く食べようと思い、遊びのキリを という違いです。 つけて、席を確保して自発的に待っている

ませんが、長い時間待ったうえに、決めら 含まれることだという考えもありますが、 れた量を個々のニーズにかかわらず「残さ るようです。待つことが悪いことではあり ませんね。そして、実際食事の席に着いて 2人、3人の家族ってあまりないかもしれ からかなり長い時間、待っていることがあ ことだと思います。また、日本の食育にも 食事を皆で一緒に摂るということはよい

お客様より先にさっさと食べてしまう子も 迎えすることにしました。しかし案の定、 のタイミングで食べる形式で、お客様をお をどうしようと考えましたが、食事を自分 か失礼な感じになってしまいました。 方を食事に招待していました。食事の形式 以前、毎月1回、一人暮らしの高齢者の 理由を知らないお客様には、なんだ

ろん何の問題もなく、子どもたちは待つこ べるよ」と伝え、一緒に食べました。もち はお客様をお迎えするので、皆で一緒に食 ことはないようです。 ことで、集団での行動が難しくなるという とができました。一人ひとりを大切にする そこで次の月には、子どもたちに「今日

驚き、感心してしまいました。 人もありません。そのことは私たち自身が がありました。ダラダラ食べている姿は たら、子どもたちが姿勢よく食べている姿 こうした食事を続けて、 ある時気がつい

ろあるので、「○時ぐらいまでには食べて のすき具合を自分で感じ、自己決定して食 てはなかなか大変なことかもしれません。 ずべなさい」ということは、小さい子にとっ 子どもたちはすぐに慣れてくれました。 ね」と伝えてあります。こうした方法にも べています。しかし、大人の都合もいろい 私の園では、子どもたちは自分のおなか

勢よくしなさい」といった言葉を掛けてい 達が促され、結果として、姿勢がよくなっ 様々に身体を動かすことにより、身体の発 自発的に行動している、また遊びの中で とをしているからではないかと思います。 るわけではないのです。日常の積み重ねで ているのではないかと考えています。 日常の中で、毎日自分で考えて行動するこ に指示されたから行動するのではなくて、 てくれるのです。なぜかと考える時、 結果として、こうした素晴らしい姿を見せ かにしなさい」「集中して食べなさい」「姿 どうしてそういうふうに育ったのか。「静

3 保育士が客観的に自身を見直す

した。 思います。自分の区切りのためにいってい 掛けなくても子どもたちはわかっていると ると、「習慣的にいっていましたが、声を ました。ふと「この言葉掛けって必要かな」 育士の「はい、今から食事にしますよ」と はやめてみます」という返事が返ってきま たかもしれません。全体に向けての声掛け 活が進まないかな」と聞いてみました。 と思い、その保育士に「そういわないと牛 いう、子どもたちへの声掛けが聞こえてき た時、私が園庭で草取りをしていたら、保 こうした取り組みを始めてしばらくたっ ·クをやっている子(4歳児)と遊んでいる子



どもたち自身が生活の見通しを持って、 日々をすごす」といった日常に切り換えて 方ができます。そこで、見方を変えると、「子 営まれていく日々になっている」という見 たら何かが始まる」「大人の合図で生活が と思われる方もいらっしゃるかもしれませ 続いていきました。「『食事ですよ』と声を 都合もなく、子どもたちの生活は問題なく 掛けることが、なぜよくないことなのか. 「言葉を掛けることにより、大人が指示し もちろん、その声掛けをやめても何の不 言葉を掛けること自体はよいのですが、

4) 肯定的で温かい言葉遣い

いくように思います。

子どもの所在を把握する必要があるので は生理現象なのに、許可するというスタン いきます。 スはどうか」と疑問に思いました。そこで づきとそれに伴う変化(具体的な実践)が: ことかもしれませんが、こうした小さな気 いいと考えました。どちらでもいいような トイレ行っていいですか?」と聞いていま 「トイレに行ってきます」という伝え方で した。その言葉に、1人の保育士が「排泄 一人ひとりを大切にする保育につながって 私の園では、ある時、子どもが「先生、

ら続けていくうちに、園内で保育士が話す 言葉遣いが、いつの間にか指示命令ではな く、肯定的で温かい言葉に変わっていまし こうした取り組みを行きつ戻りつしなが

一つひとつ、小さなことで、特別なこと

せる」から「支える」に少しずつ転換して ていく時に、保育のスタンス・意識が、「さ いく、具体的な実践の取り組みとなってい る、そして、それぞれが自身で気づきを得 葉掛けをしているのか」と客観的に見てみ 保育士自身それぞれが「自分はどんな言 子どもたちは、大人の私たちを映す鏡のよ であふれているように感じます。つくづく のこととして、子どもたちどおしの言葉遣 の姿に反映されてきます。その結果、当然 ではありません。丁寧に考え、行動してい うだと思います。 いも、否定や非難することなく温かい言葉 くことを重ねていくことで、自然に子ども

くのです。

現するのなら、「全人教育」という表現も 理なくつながっていきます。別の言葉で表 積み重ねが、全体的な発達を促すことに無 育することは、それぞれの全人格を育てて ことです。 いくことに無理なくつながっていくという できると思います。一人ひとりを大切に保 んできます。一つの小さな気づきや実践の もたくさんあります。こうした日常の中で、 化したり、成長を見せてくれることがとて ていると、いつの間にか全体的に大きく変 ゙ホリスティック」という言葉が思い浮か 目の前の小さなことを一つひとつ実践し

5 | 「課業」を新たに学ぶ

した。子どもの自発的な遊びを守り、保障 法を保育士が考えて実践していますが、「課 業」という方法を新たに学ぶことになりま ては、丁寧に見られる人数ずつで進める方 前述のように、いわゆる設定保育につい

●① 祖父母を迎えて外遊び(幼児) ② 室内遊び(5歳児)

図的に学びの機会を提供していくことが大 する中で、最大の発達を保障し、 ことと同時に、幼児については、大人が意 引き出す

間テーマがあり、それから月のテーマを えています。そうはいっても現実的には年 ではなく、本当におもしろいと思えるよう は含まれているのですが、できれば小手先 ことを見つけたら素敵だと思います。私は 「何かおもしろいことをしたら」とよく伝 今までの設定保育の中にもこうした考え 保育士自身も目を輝かせてできる

ます。 を見ながら、領域にあることを毎週1回は 持って課業を行っています。これがなかな か、苦戦しています。 ある年から、年間テーマと月のテーマを

は、その時々の子どもの興味関心や、情報 からです。これは大人の都合ですね。本来 ど互いに助け合えるのではないかと考えた なりました。今年の年間テーマは「自然 10月は「季節」、11月は「素材」となってい 社会」。ちなみに9月のテーマは「身体」、 幼児全クラスで同じにしようということに 同じテーマにすることで、教材の準備な



室内遊び (3・4歳児)

は未だに試行錯誤中です。 行っていくものですが、このことに関して

組んでくれています。そんな職員の姿を、 ら、あれこれ皆で考えながら前向きに取り 嬉しい気持ちで見守っています。 ただ、保育の現場は日常を大事にしなが